

## 【20周年記念誌】

SIDS家族の会 20年間のあゆみ (2013年10月)  
～小さな子供の命を守り、遺族を支えるために～  
より出典

## これまでの活動を振り返って

託児ママ マミーサービス 中村 徳子

SIDS予防活動を始めて今年で17年になります。活動の大きな思い出のひとつ、1997年に京都市で開催された、SIDS家族の会フォーラムに初めて参加させて頂いた時のことは、今も忘れられません。

フォーラムでご質問をさせて頂いたとき、ご来賓のルイス・P.リプシット先生が、「SIDSの研究には、家族、研究者、そして保育者の協力も必要」と、言われました。

先生が保育者の協力も必要と言って下さったことが、とても嬉しく、いつか保育の側から研究にご協力させて頂けるようになりたいと思いました。さらにフォーラム終了後に、お電話を下さった仁志田先生のお言葉は、とてもあたたかく、それまでの活動の辛さが全て吹き飛んでしまうほど、嬉しかったです。

その8年後、仁志田先生から預かり初期のシズ発症リスクに関する国内調査をして、アメリカ小児科学会のデータとともに、SIDS国際会議(2006年・横浜市)で発表するよう勧められました。それは、ステイファニーさんのお陰で6年間探していたデータが見つかったことが大きいです。

仁志田先生のお言葉をお聞きしたとき、やっと保育の側からSIDS研究にご協力させて頂くことができる、ルイス・P.リプシット先生のお言葉を実現させて頂けると、喜びがわきあがってまいりました。

発表は、(有)マスターワークス代表の伊東和雄氏とさせて頂きました(仁志田先生の勧めでその後、論文も発表させて頂きました)。1)

SIDSを経験された保育者の聞き取り調査は、当初困難が予想されましたが、「お子様の命を無駄にしたくない、もう誰にも悲しい思いをしてほしくない」との思いから調査にご協力下さいました。

この調査から、入園1ヶ月以内のSIDS発症率が約55%と、他の月と比べて、とても高いことが確認できました。さらにアメリカ小児科学会の報告2)と同様に、保育開始1週間以内と初日の発症率が高く、データも近似しておりました。

また、分析からは除外しましたが、ALTEも数件あり、SIDSと同様に保育開始1ヶ月以内に高率で発症しておりました。

呼吸停止発見時のお子様の体位は、うつぶせ寝が61%と、保育環境の中でもその危険度の高さが、確認できました。保育施設では、うつぶせ寝への体位変化後に、比較的短時間で呼吸停止が起きていることを以前からお聞きしておりましたので、寝返りによるうつぶせ寝も、すぐ仰向けに戻すよう、保育者へお伝えさせて頂くようになりました。

日本では、SIDS発症の80%は生後6ヶ月まで、90%は1歳までに発症するといわれておりますが、保育施設の調査では、生後6ヶ月から1歳までの発症は、全体の29%でした。このことから、保護者がお子様の側におられない保育施設の環境は、SIDS発症リスクがさらに高くなるのかもしれないと、アメリカ小児科学会の報告3)からも一層、強く感じました。

保育施設で発症するSIDSをさらに予防するためには、①「保育に関わられている皆様が、預り初期にSIDS発症リスクが高まることを認識する」②「それぞれのお子様の体調に合わせた、ならし保育を実施する」ことも、とても有用と考えております。それは、SIDS予防だけでなく、預かり初期に体調を崩しやすいお子様の心身の負担を減らし、より健やかな保育にもつながります。

②は、ならし保育期間の延長が必要となる場合もありますので、保育行政のご協力が必要不可欠です。さらに保護者の勤務先のご理解とご協力も必要です。既に取組みをされておられる自治体もありますが、残念ながらまだ少ないです。

お子様のご家族をはじめ、社会全体にとってもかけがえのない宝です。お子様の健やかな成長を社会全体でさらに応援、サポートしていけるシステムが、一日も早く実現いたしますことを切に願っております。

SIDS予防活動をさせて頂く中で、心に残る一番大きな出来事は、1998年、国によるSIDSキャンペーンが始まり、SIDSが激減したことです。SIDS家族の会が、国に先駆けてSIDS予防キャンペーンを始められたことが、国によるキャンペーンの実現につながりました。それだけに当時、SIDS家族の会が、キャンペーン実施を決断されましたことに、心から敬意を表します。

最後になりましたが、SIDS家族の会20周年、本当におめでとうございます。1995年、ご家族様とは逆の立場の私にも、手を差し伸べて下さったピフレンダーの方々の優しさ、心の大きさにふれさせて頂いたことが、SIDS家族の会との出会いの始まりでした。そしてその出会いが、SIDS予防活動へとつながりました。当時を振り返り、今改めて御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

1) 保育預かり初期のストレスとSIDS 危険因子の関係について

伊東和雄・中村徳子：(社)日本小児保健協会 小児保健研究

Vol. 65 No. 6, P836-839 2006

<http://www.ne.jp/asahi/master/lfsa/PDF/SIDS0611.pdf>

2) 預かり初期1週間以内に全体の3分の1、さらにその50%が初日に発症していました。

3) アメリカ小児科学会「REDUCING THE RISK OF SIDS IN CHILD CARE (2008年)」によれば、もしSIDSが24時間一定の割合で、どこでも同じ割合で発症するとすれば、乳児が保育施設で過ごす時間から算出したSIDS発症の割合は、8.8%です。しかし、実際はその2倍以上、20%のSIDSが発症していました。